

インフォメーション

すべてのお申し込み・お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申し込みの際は、件名を各イベントタイトルとして、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。



講座

初めての市民活動を応援します「はじめてのミニイベント」

日時：10月22日(土)
「はじめてのミニイベント 企画運営基礎編」午後1時半～午後2時半
「はじめてのミニイベント 運営事務局編」午後3時～午後4時
内容：市民活動初心者の皆さんを対象に、ミニイベント(※)の企画から当日までの流れと、イベントを円滑に運営する事務局の役割について、基礎から学べる講座を開催します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。
※ミニイベント：講演会や研修会、交流会、活動体験会など、外部の人の参加も想定される定員数名～100名、予算10万円未満の企画。
会場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5
定員：各15名(先着順)
対象：これから活動を始めようと考えている方 新しく団体・グループを立ち上げた方 新たにミニイベントの企画を予定している団体・グループの方 アイディアを実行に移せずにいる方 手探りで活動していて、イベントの実施に不安のある市民活動団体・NPO法人など
参加費：無料

サポセンスタッフから



9月24日(土)実施
仙台ちょっとまち歩き
市民活動の現場におじゃまします！

仙台のまちで活動しているNPOや市民活動の現場を巡る、まち歩きを行います。今回は、仙台の繁華街、国分町・定禅寺通エリアを中心にご案内。訪問先では活動者の話を聞いたり、実際に現場を見たりと、市民活動を体感していただく大人の社会見学です。ぜひこの機会に、普段の暮らしの中では気づかずに通り過ぎていくかもしれない市民活動の現場を訪れてみませんか。詳細は、ホームページやチラシなどでお知らせいたします。皆さまのご参加をお待ちしています。(村上)

サポセンスタッフから



社会の課題解決や地域を元気にするアイディアに出会える4日間

日時：2016年11月3日(木・祝)～11月6日(日) 会場：仙台市市民活動サポートセンター

108万人が暮らす仙台では、社会の課題を解決したり、地域を元気にするために多種多様なアクションが展開されています。それらのアクションは、市民活動、地域づくり、ソーシャルビジネスなど様々な言葉で説明され、どこか自分とは関係のない言葉に聞こえるかもしれません。でも、始まりは「身近な人の困りごとをなんとかしたい」、「このまちをもっと良くしたい」など、一人ひとりの思いやアイディアから生まれた行動でした。

サポセンでは、4日間にわたり、仙台で行われている協働の取り組みや県内外の社会を変えるアクションを、トークイベント、ワークショップ、展示など、日替わり企画でご紹介します。多くの事例から、暮らし、仕事、プロジェクトなどの、ひらめきが得られます。多彩なアクションに「触れて」感じ、様々な思いや価値観と「交わり」ながら、人と地域と社会とのつながりを「考える」場です。ぜひ、ご参加ください。詳しくは、ホームページやチラシなどで随時お知らせいたします。(菊地)

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：9月14日(水)・30日(金)

※受付システムメンテナンスのため、第4水曜日の休館日が30日(金)になります。

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog] http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>

情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビトを取材しています！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2016年9月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子 黒川 夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.205

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

薬害被害者支援サークル
balloons+(バルーンズ・トス)
おのかりん
広報担当 小野 夏琳 さん(22)

薬害被害者を支援
根絶への願いを受け継ぐ

病気の予防や治療をするはずの薬が非情にも、身体をむしばむ。薬の安全性が軽視されたために起こる「薬害」の実情を大学の講義で知り、苦しむ人たちの力になろうと、在仙の大学生有志が2014年春に設立した支援サークルが「バルーンズ・トス」です。薬害根絶を願う被害者の思いを風船に例え、社会に幅広く発信してつないでいく志を、「トス」という動作に重ねます。宮城大3年小野夏琳さん(22)は、子宮頸がんワクチンの副反応で入院する被害者を支援しようと週2回、仙台市内の病院を訪れます。症状に個人差があり、苦しみを周囲に理解してもらいにくいのが、薬害の悩みの一つ。孤立し、塞ぎがちな患者と一緒にレクリエーションを楽しみ、寄り添います。「最初はなかなか行動に移せなかった」と小野さん。先輩の「大切なのはどれだけ相手に親身になれるか」との言葉に勇気付けられ支援の前線に立ちました。医療の進歩と世間の非情とははざま揺れる風船に、そっと手を差し伸べ続ける若者たちの確信は、「真っすぐな気持ちさえあれば、きっと誰かの力になれる」です。

取材・文 加藤里香(宮城学院女子大学3年)



薬害被害者支援サークル balloons+(バルーンズ・トス)

連絡先 balloons.toss@gmail.com http://balloonstoss.otogirisou.com/
今年7月、バルーンズ・トスは新たな場づくりを始めました。皮膚炎患者が集う「CalanColon(カラコロン)」です。皮膚炎は患部によっては人目につきやすく、対人関係に影響を及ぼすことがあります。そうした苦悩を薬害被害者を支援する中で知り、従来とは違うアプローチが必要と動きました。患者同士が主体となり、サポセンを会場に月1回、悩みを打ち明け合える場を用意。メンバーは、サポートにまわります。人の輪こそが、人の悩みを和らげる力…。多くの人の参加を待っています。

特集

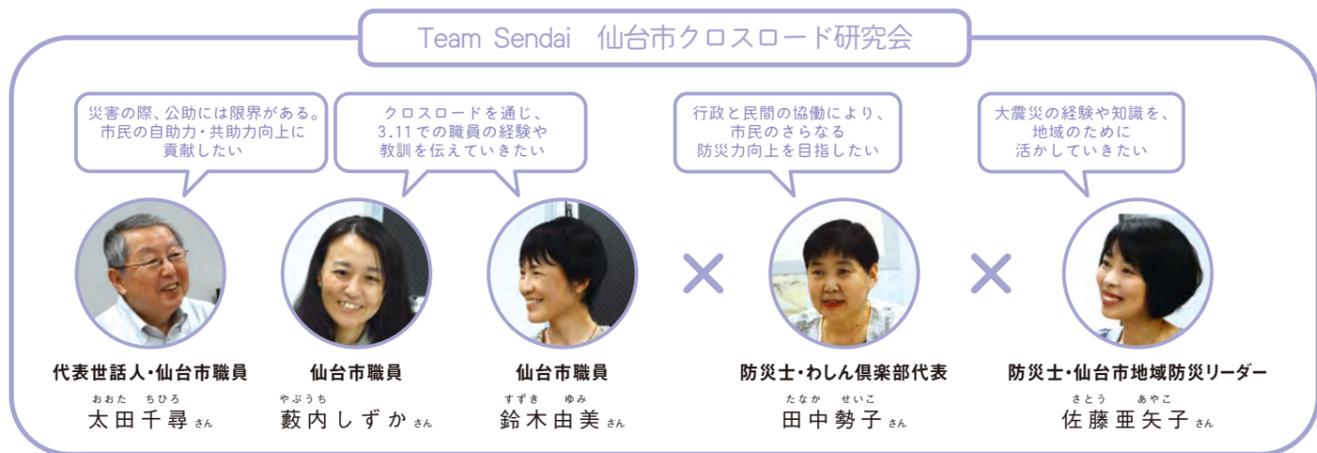
クロスロードで、防災・減災を

楽しく学ぶ Team Sendai

仙台市クロスロード研究会

クロスロードで、防災・減災を楽しく学ぶ Team Sendai 仙台市クロスロード研究会

9月1日は、防災の日です。この日は、1923年に関東大震災が発生した日で、14万人以上が犠牲となりました。また、1959年9月26日には、伊勢湾台風が上陸し、5000人以上が犠牲となる戦後最大の災害となりました。これを契機に災害に備え、防災意識を高めるため1960年、防災の日が制定されました。今回は、仙台市職員有志による自主勉強会組織が、先の東日本大震災時の経験を振り返りながら、市民や市民団体とともに進めている防災の取り組みを紹介します。



災害時の判断力を磨くクロスロード

2014年6月、関東以北では仙台で初めて「第8回クロスロードのついで全国大会」が開催されました。開催の中心的役割を果たしたのが仙台市クロスロード研究会(以下「仙台クロ研」と)、防災啓発活動に取り組んでいる市民活動団体「わしん倶楽部」です。一般市民にも参加を呼びかけ150人が参加しました。

クロスロードは、阪神・淡路大震災の実体験をもとにつくられた災害対応シミュレーションゲームです。災害時の困難な状況を表す設問に対し、どのような行動をとるのかを参加者は様々な立場になってYESかNOで即答。参加者同士で判断した理由や背景などの意見を交わしながら、多様な考えについて理解を深めていくというものです。市民の防災力を高めるために有効な方法として注目されています。

はじまりは市役所内のコミュニケーションづくりから

仙台クロ研は、仙台市職員による自主勉強会「Team Sendai」の5つある定例活動グループの1つです。Team Sendaiは、2010年9月に、市職員が互いに学び合うことを通じて職場や部局を越えたコミュニケーションを生み出したいという思いで設立されました。活動を

始めた翌年、東日本大震災が発災。以降は、市職員の震災体験を記録し、伝える活動にも取り組んでいます。

仙台クロ研は、クロスロードをツールとし「防災・減災」について学ぶ勉強会として2014年3月に発足。市職員有志のほか、市民活動団体などにも声をかけ、外部と積極的に交流を図っているのが特徴です。わしん倶楽部の田中勢子さんは、「一緒に活動することで、クロスロードの認知が広がる」と言います。防災リーダーとして、地域で活動する佐藤亜矢子さんもクロスロードに興味を持ち参加。「災害時の行政の動き方を知ることで、市民が協力できることが分かる」と市職員と市民がともに活動する意義を語ります。

仙台クロ研はSNSを通じて、仙台だけでなく全国のクロスロードを研究する団体や市民ともゆるやかに繋がっています。先の熊本地震においても、いち早く情報共有することができました。市職員の鈴木由美さんは「防災だけではなく、様々な情報をお互いに共有し合えることは、仙台クロ研の大きな強みだ」と言います。代表世話人の太田千尋さんも「全国の活動団体と広くネットワークで結ばれ、仙台市の枠を超えた市民協働での防災啓発を実践している」と強調します。



■連絡先
仙台市宮城野消防署予防課内(太田)
〒983-0036 仙台市宮城野区若竹3-6-1
TEL 022-284-9211 E-mail chihiro_oota@city.sendai.jp

災害は繰り返す、その時のために。

市職員の藪内しずかさんは「最初の一步は小さかったのですが、点が線となり面となって、広がりを活かした活動に発展してきた」と語ります。今後は、クロスロードの指導者育成にも力を入れたいと意欲的です。

クロスロードは災害の実体験を設問にし、教訓を後世に伝えることも目的の一つです。実際に、避難所運営や支援物資の配布など神戸で起きたことが3.11で起き、熊本地震でも起きていることに驚きます。多くの人たちに、災害時の疑似体験をしてもらい、災害の際に役立ててもらおうと。クロスロードを介した草の根活動は、市職員有志と市民、市民活動団体とが互いに知恵を出し合うことで、これからの自助力・共助力の向上につながることを期待されます。(取材・文 大橋年男)

宮城野区で防災・減災を考える 「いわきり防災エンパワーメント」の「いわきり防災かるた」

いわきり防災エンパワーメントは、宮城野区で活動している団体です。防災に関するワードと、曲がりネギや県民の森など岩切らしさを随所に織り交ぜ、楽しみながら防災を学べるように防災かるたを子どもたちと一緒に作成しました。子どもからお年寄りまで楽しめるように工夫しました。今後小中学校や町内会の防災訓練で活用していきます。
■連絡先 〒983-0821
仙台市宮城野区岩切字若宮前 62-3 TEL 080-1850-4179



▲かるたはA3と名刺サイズがあります。

「学ぶことが、人生を豊かにする」仙台自主夜間中学

仙台自主夜間中学は、戦争で小中学校を卒業できなかった人、不登校や家庭の事情、病気などで満足に学校に通えず、漢字が読めない、四捨五入ができないなど、生活に不便を感じる人々の学びの場です。

代表の中澤八榮さん(73)は、「大学時代の学びをより深めたい」と一念発起。定年退職後、大学院に進学しました。そこで社会教育を学び、義務教育を満足に完了していない人たちが大勢いること、宮城県には公立の夜間中学が存在しないことを知り、大学院修了後の2014年6月に「仙台に夜間中学をつくり育てる会」を発足。同年11月「仙台自主夜間中学」を開講しました。始め4人だった生徒が、現在は、10代から80代まで40人ほどの方々が学んでいます。

公立の夜間中学とは異なり、自主夜間中学では、中卒の資格は得られません。本を読む楽しみを知る、向学心が刺激され67歳で通信制の高校へ進学する人が現れるなど、学ぶことから世界が広がる喜びが学習の原動力です。学校では遠足などの行事も行われ、生まれて初めての遠足を体験したという人もいます。様々な行事は、通う人の居場所づくり、異世代交流の貴重な場ともなっています。

学ぶことによって、人は幾つになっても自分の可能性を広げていくことができる。もしかしたらここに教育の原点、本当の姿があるのかもしれない。



▲授業は、仙台市市民活動サポートセンターで月2回開かれています。会では、学習者、ボランティアのスタッフを募集しています。

■連絡先
仙台に夜間中学をつくり育てる会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3LC.106
TEL 090-7562-3227
E-mail c.yasaka.r@ab.auone-net.jp

お立ち本 社会をちょっとかえてみた ふつうの人が政治を動かした七つの物語
著者:駒崎弘樹・秋山訓子 / 出版社:岩波書店

保育園が足りない、障害者だって自立して生活がしたい、性的マイノリティが生きやすい社会になったらいいのに…暮らしの中の身近な課題と向き合った「ふつうの人」が、政治を動かし、法改正に挑んだ7つの事例や方法を紹介します。議員・行政への陳情や交渉などの方法論から、社会をちょっと変えるヒントを得ることができます。



おトク本 第15回仙台ゴスペル・フェスティバルを盛り上げよう!
開催日:2016年11月5日(土)午前11時~

仙台ゴスペル・フェスティバルは、ゴスペルを中心に、あらゆるジャンルの歌声が集まる市民参加型の音楽祭です。昨年の動員数は約5万人。今年も市内の広場や商店街などのステージで、120組約1200人の歌声が響きます。音楽祭と一緒に盛り上げてくれる当日運営ボランティアを募集しています。当日ボランティア説明会:2016年10月29日(土)午後1時半~ 問合せ:第15回仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会事務局 TEL 070-1148-0015 mail info@gosfes.org HP http://www.gosfes.org/

